

<経済>

東南アジアからのインバウンド増加

訪日外国人数は、2013年に初めて1,000万人を突破し、2016年には2,404万人に達しました。東日本大震災の影響もあり訪日外国人の数が落ち込んだ2011年以降、順調に数字を伸ばして、その後の5年間で約4倍の伸びとなっています。

これに伴い、インバウンド消費も増加しています。中国人観光客を中心とした「爆買い」は減速傾向にありますが、2016年の訪日外国人旅行消費額は3兆7,476億円で過去最高を記録。2015年には、53年ぶりに外国人の日本での消費額が、日本人の外国での消費額を上回りました。今では、訪日外国人の旅行消費額は、自動車部品の輸出額に迫る市場規模に成長しています。

東南アジアから日本へ訪れる旅行者も増加しています。主要4カ国（タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア）からの訪日客数は、2013年からの3年間で倍増。特に、東南アジアトップのタイの伸びは顕著で、2017年の訪日客は100万人を超える勢いです。

このような訪日外国人増加の主な要因について、日本政府観光局は次のように分析しています。

(1) 海外における官民連携の継続的なプロモーションによって、日本の目的地としての注目度が高まったこと

(2) 東南アジア・中国に対するビザ要件の緩和、消費税免税制度の拡充といった政府による制度改善策がとられたこと

(3) 全国的にインバウンド促進の機運が高まり、各地での訪日客の受入れ環境整備が進捗していること

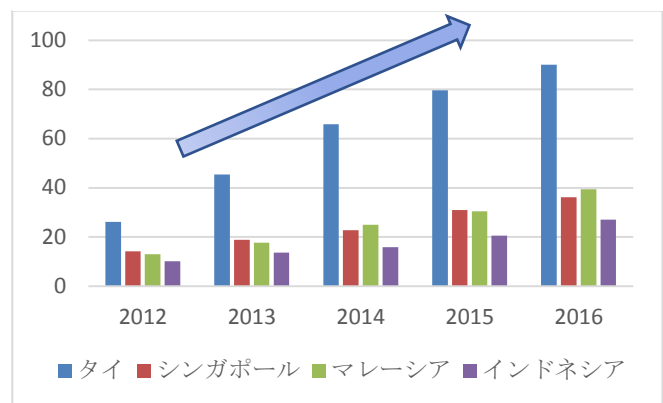
(4) 世界的に国際観光需要が拡大し、特にアジア諸国で所得水準向上による旅行需要が増加していること

(5) 格安航空（LCC）やクルーズ船の拡充

現地での実感としては、円安の影響で訪日旅行のお得感が増している面もありますが、日本国内の外国人旅行者の受入れ態勢の向上や、海外での積極的なプロモーションが、インバウンド観光の成長につながっていると感じます。

日本政府観光局が発表した今年上半期（1～6月）の訪日外国人の合計は1,375万人と、昨年と比べて17%も伸びており、今年も過去最高を更新しそうです。日本政府は、東京オリンピックが開催される2020年に訪日外国人「4,000万人」という大きな目標を掲げていますが、この勢いをさらに加速できれば、目標達成も夢ではないかもしれません。

訪日外国人数（国別）



＜社会＞

シンガポールのハラール食品戦略

多民族国家として知られるシンガポールでは当然宗教のバックグラウンドも様々であり、街を歩いていると、それぞれの宗教に合わせた多種多様な食事に触れることができます。今回は、その中でも近年日本での関心も高まっているハラール食品（イスラム教の教義に沿った材料、食品）についてシンガポールが進めている戦略をご紹介します。

まずハラール食品と聞くと、ハラール認証を取得している食品とイコールだと思われる方が多いかもしれませんが、正確にはイスラム教の教えに基づき合法だと各個人が判断した食品を指し、ハラール認証はその判断材料としての役割を果たしています。しかし、一括りにハラール認証といっても認証機関は世界各国に 500 以上存在し、それぞれが独自の基準を設けているためその全てが信頼できるわけではありません。そこで、シンガポール政府はまず認証の基準を統一すべく 1999 年より MUIS と呼ばれる機関に認証権限を一任し、統一した厳格な基準において審査させることとしました。



シンガポール名物チキンライス屋台で見つけたMUISの認証マーク
(緑の丸い形のもの)

また、世界最大のムスリム人口を抱えるアジア・太平洋地域の中心に位置するシンガポールは、今後のインバウンド消費を主眼にMUISによる国内店舗へのハラール認証を積極的に進め、ハラール認証取得店舗数は 2000 年時点で 533 店舗であったのに対し、2016 年時点では 4016 店舗にまで拡大しています。加えて、ハラール食品・飲料の新商品開発にも力を入れており、2009 年 1 月～2010 年 11 月の新商品開発数は、ムスリム大国インドネシア（国民の 87%がイスラム教徒）をも上回る 12,154 アイテムにのびりました。これら新開発の商品も合わせる

と、2016 年末時点で 40,000 点以上に及ぶ食品に関してMUISの認証が付されており、ムスリムの人々は様々なスーパー、商店等で簡単にハラール認証付食品を手に入れることができます。

このような取り組みの結果シンガポールは、クレセントレーティング社が発表するハラールフレンドリーな旅行先ランキングにおいて、非OIC（イスラム協力機構）の旅行先としては 5 年連続（2013 年—2017 年）1 位を獲得するなど、まさにハラール分野における先進国といえるでしょう。

出所：MUIS「Singapore Halal Directory 2012」、Gain Report「Halal in Singapore」

Global Pathfinder Report April 2011, Mintel 2010

GMTI REPORT 2013-2017, Master Card Crescent Rating

シンガポールの見本市情報

Marina Bay Sands

名称	期間
Vitafoods Asia 2017 栄養補助食品、機能性食品、ダイエットサプリメント、化粧品	9月5日～9月6日
Build Eco Xpo Asia 建築、インテリア	9月12日～9月14日
MCE Asia 2017 暖房、空調、水処理、再生可能エネルギー	9月12日～9月14日
Franchising & Licensing Asia 2017 フランチャイズ製品、ライセンスプロパティ	10月12日～10月14日
SIEW 2017 エネルギー技術・製品、ソリューション	10月23日～10月27日
ITB ASIA 2017 旅行商品、旅行用品	10月25日～10月27日
Food Japan 2017 農産品、水産品、加工食品、スナック、アルコール飲料、日本茶、清涼飲料	10月26日～10月28日

Suntec

名称	期間
TechX 2017 IoT、AI、3D、サイバーセキュリティ、ブロックチェーン	9月6日～9月7日

Singapore EXPO

名称	期間
WasteMET Asia Symposium 2017 食品廃棄物ソリューション、廃棄物管理	10月19日～10月20日
BuildTech Asia 2017 建築用機械、建築資材、電気、照明、衛生設備	10月24日～10月26日

* 上記の見本市は予定が変更になる場合もありますのでご注意ください。

★ トピックスレポート（シンガポール人スタッフ便り）★

～SG52 NDP2017～

「SG52 NDP2017」。これが何のことかお分かりになりますか？正解はシンガポールの一大イベントである「シンガポール独立 52 周年記念ナショナルデーパレード 2017」のことです。シンガポールの人々は SGxx NDP20xx といえはすぐ分かるほど、毎年恒例のイベントとなっています。今年（8 月 9 日）はマリーナベイで開催され、テーマは One Nation Together（皆で一つの国家を作ろう）でした。イベントのロゴも 4 つの民族集団（中華系、マレー系、インド系、ユーラシア系）が手を取り合っているイラストで、これは 1967 年に発行されたシンガポール初の 10 ドル札から発想を受けたものです。



今年のイベントロゴ



シンガポール初の 10 ドル札

また、テーマソング「Because it's Singapore!（シンガポールだから）」はあらゆるバックグラウンドの人々が同じシンガポール人として団結する意義を謳っています。

パレードはまず、お馴染みのテーマソングを皆で明るく歌うことから始まりました。パラシュートを用いたパフォーマンスも見応えがあり、皆の期待が高まります。いよいよパレードが開始し、シンガポール軍隊による圧巻の行進で会場が盛り上がる中、シンガポール第 7 代目大統領であるトニー・タン氏も会場に姿を現しました。

その後も、シンガポール空軍による航空ショーやシンガポール伝統のライオンとドラゴンの集団舞踊、そして豪華な花火と続き、無事ナショナルデーパレードは閉幕しました。ナショナルデーパレードは、シンガポール人の心をつにしてくれる大切なイベントとなっています。

